

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
経営財務論 I financial management I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
経営学 I・II、証券と金融、ビジネス実務総論 I・II、経済学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
経営学 I、証券と金融				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
國分三郎	本館 2F	木曜日 13:00~14:00		授業中に指示します
授業の概要				
企業財務論とは、企業資金の調達と運用に関する学問である。本講座では、規範論的立場から今日の企業財務論の基本的な概念や理論を取り上げる。さらに、講義の中でヨーロッパの金融問題や金融の量的緩和といった我が国の金融問題もとりあげる。				
授業の到達目標				
①今日の経営財務に関する基本的な概念と理論を理解することができるようにする。 ②企業の財務行動を考えるとときの基本的な知識を理解することができるようにする。 ③金融機関と企業との関係を理解することができるようにする。				
授業の方法				
講義				
学習の成果				
①リスクや貨幣の時間価値と云った概念を用いて我が国企業の行動を理解して説明することができる。 ②国際社会における我が国企業の財務行動を理解して説明することができる。 ③新しい時代にマッチした財務テクノロジーの知識や理論を理解して説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	はじめに(シラバスの説明、講義の狙いと進め方、成績評価の説明、受講の態度の説明)			
第2回目	経営財務論とは(激動期における我が国企業の課題、現代ファイネンスの体系、経営資源とファイナンス)			
第3回目	財務政策と財務的意思決定(ポリシーミックス、ファイナンシャルミックス、配当政策)			
第4回目	株主富の極大化(株主の富とは、株主富の極大化の財務的意義、利益概念との違い、企業観との関係)			
第5回目	経営財務におけるリスク(リスクとは、リスクの発生要因、リスク概念の財務的意義、リスクの種類)			
第6回目	投資家とその行動様式(投資と投資家、投資家の種類、投資家の行動様式)			

第7回目	キャッシュフロー経営①(キャッシュフローとは、キャッシュフローの財務的意義、キャッシュフローの種類、CF計算書における分類)		
第8回目	キャッシュフロー経営②(キャッシュフロー計算の一般式、減価償却とキャッシュフロー)		
第9回目	貨幣の時間価値①(貨幣の時間価値とは、現在価値と未来価値、利子の存在と時間価値)		
第10回目	貨幣の時間価値②(未来価値の現在価値化、時間価値を考慮した経済計算)、小テスト		
第11回目	株式評価モデル①(株式評価モデルとは、経営財務における株式評価モデルの意義、株式の経済価値)		
第12回目	株式評価モデル②(短期間モデルと多期間モデル。割引配当モデルの意味)		
第13回目	資本コスト(資本コストとは、経営財務における資本コストの意義、資本コストの種類、資本コストの計算)		
第14回目	財務レバレッジ(レバレッジとは、レバレッジ公式の導出、景気動向とレバレッジ)		
第15回目	まとめとテスト(一連の講座を振り返り、授業の補足すべき内容の説明や受講者からの質問に答える)		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		30%	最高水準(S)としては無遅刻無欠席で、授業に集中し講義への質問を積極的に行うこと。
レポート			
調査報告書			
小テスト		10%	最高水準(S)としては、基本的専門用語を90%正解すること。
中間・学期末試験		60%	最高水準(S)としては、課題の趣旨を理解して、必要な専門用語を駆使しながら論理的な一貫性をもって論述すること。
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
教科書は使用しない。講義のたびに資料を配布する。参考書：諸井勝之助『経営財務』東大出版会			
履修上の心得・ルール			
受講態度(特に私語禁止)および出席状況を重視する。無断欠席・遅刻は減点の対象とする。遅刻3回で無断欠席1回とする。			